

策定年月	令和7年10月
見直し年月	令和〇年〇月

# 麦・大豆国産化プラン

産地名：筑西市

(作成主体：北つくば農業協同組合)

# 1. 麦・大豆生産の現状と課題及び課題解決に向けた取組方針

## 【現状と課題】

筑西市は県内1位の小麦生産量を誇り、茨城県の奨励品種である日本麺用「さとのそら」、日本麺用「きぬの波」、パン用「ゆめかおり」の3品種が栽培されている。

担い手の大規模化が進展しており、自己で乾燥調製施設を所有する経営体も数多く存在し、今後も小麦は水田輪作体系における重要な戦略作物として関係機関と連携して生産拡大を図る方針である。

しかし近年、生産者の減少に加え、生産上の課題として以下の項目が挙げられる。

- ・難防除雑草カラスムギによる収量・品質の低下
- ・地力の低下
- ・湿害
- ・大規模化による適期作業の遅れ

これらの課題が幾重にも重なり、生産量・品質ともに実需者の要望を満たしておらず、生産意欲の減退が見られる。

また令和5年に発生した小麦DON基準値超過事故により、安心安全の取組についても重要性がよりクローズアップされることになった。そのため、DON基準値超過防止に加え、アレルギー物質の混入防止、異物の混入防止、残留農薬基準値超過防止等、小麦の安心安全を担保する取組は今後一層強化していかなければならない。

## 【取組方針】

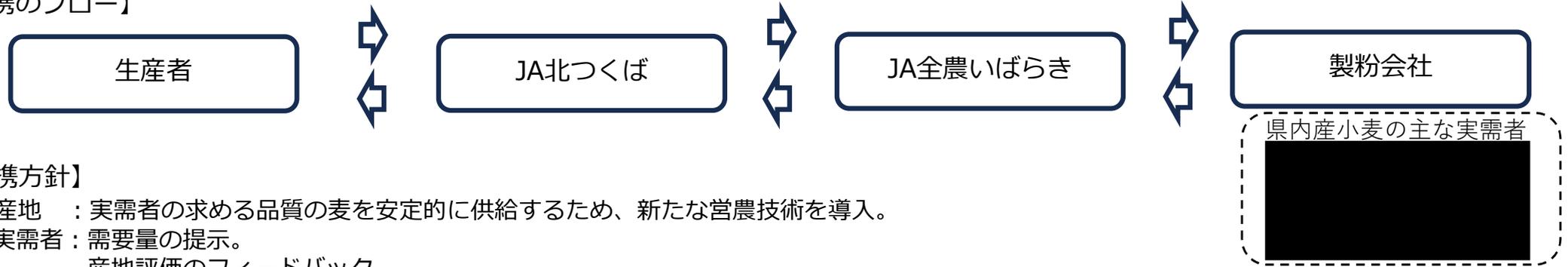
- 1-団地化の推進
- 2-高品質安定生産技術の研鑽
  - (1)-土づくり
  - (2)-湿害対策
  - (3)-適期・適量の施肥
  - (4)-適期作業の徹底
- 3-難防除雑草カラスムギ体系防除技術の普及
- 4-安心安全な麦生産に向けた取組強化
  - (1)-DON検査の徹底
  - (2)-そば等アレルギー物質の混入防止
  - (3)-残留農薬基準値超過防止
  - (4)-異物混入防止



※ 麦・大豆生産における課題(湿害対策、適期播種、土づくり、連作障害対策等の必要性等)を具体的に記載すること。  
※ 課題解決に向けて取り組む内容及び今後の生産拡大に向けた方針を具体的に記載すること。

## 2. 産地と実需者との連携方針

### 【連携のフロー】



### 【連携方針】

産地：実需者の求める品質の麦を安定的に供給するため、新たな営農技術を導入。

実需者：需要量の提示。

産地評価のフィードバック。

### 【生産計画】

J A北つくばの出荷契約数量5,538.1 t（さとのそら、きぬの波、ゆめかおり）うち事業実施者の出荷契約数量56.1 t、令和6年度の事業実施主体の出荷契約面積は18.2haであった。令和10年度には6%の生産面積の増加を目指し、19.3haの生産面積、生産量59.5 tを目指す。事業実施主体であるJ A北つくばが生産する「さとのそら」「きぬの波」「ゆめかおり」については、需要に対して供給が足りていないため、カラスムギ対策や湿害対策の徹底をして、生産の拡大を目指す。

### 【事業実施者生産計画】

	麦種	品種	令和6年度(現状)			令和10年度(目標)		
			面積(ha)	単収(kg/10a)	数量(t)	面積(ha)	単収(kg/10a)	数量(t)
事業実施者	小麦	さとのそら きぬの波 ゆめかおり	18.2	308.0	56.1	19.3	308.0	59.5

### 【JA北つくば出荷契約数量】

品種	令和6年度J A北つくば 出荷契約数量(t)
さとのそら	4411.9
きぬの波	1030.6
ゆめかおり	95.6
合計	5538.1

### 【実需者購入希望数量】

	麦種	品種	令和6年度 数量(t)	令和7年度 数量(t)	令和8年度 数量(t)
実需者購入希望数量 (需給乖離数量)	小麦	さとのそら	15,464	14,308	14,012
※県全体		きぬの波	(-1,071)	(-474)	(-302)
		ゆめかおり			

※ 産地と実需者については具体的な名称を記載すること。

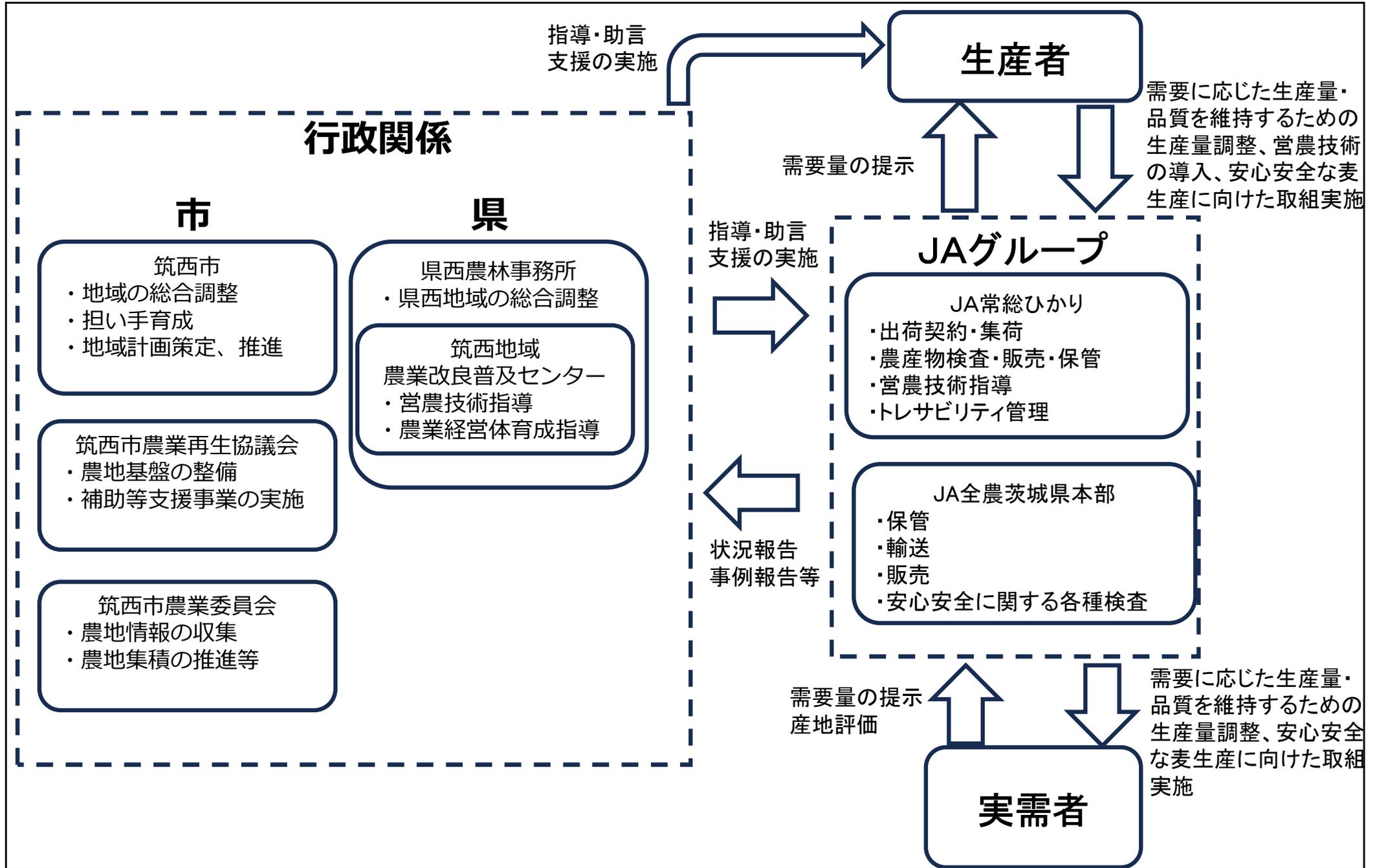
※ 麦の実需者は、麦を原料とした加工品等の製造を業とする者(製粉会社、製パン会社、製麺会社等)とする。

※ 大豆の実需者は、大豆を原料とした加工品等の製造を業とする者、大豆の販売を業とする者及びこれらの者が組織する法人その他の団体とする。

なお、販売を業とする者を実需者とする場合は、その者が販売する先(最終実需者)について、代表的な者の名称を記載すること。

※ 産地と実需者それぞれの国産麦・大豆取扱量の現状とおおむねの目標値を記載すること。

### 3. 麦・大豆の国産化に向けた推進体制及び各関係者の役割



※ 産地と実需者との連携について、図等を用いて明示すること。

※ 取組の中心となる農業者等を必ず位置付けること。